

ビオトープの花

カワヤナギ

ビオトープの一面に稲作を止めた休耕田があります。稲作を止めて数年経った或る年、そこにカワヤナギが生えて花をつけているのを見つけました。元々この一帯は湿地帯でしたので、昔からヤナギが自生していたと思われます。そのヤナギが復活したわけです。ヤナギは湿地に生える樹木で、手賀沼周辺には数種類のヤナギが見られますが、カワヤナギはその一つです。早春の3月初旬に写真のような花をつけます。普通の植物は一つの花に雄しべと雌しべが同居していますが、ヤナギ類は雄花をつける株と雌花をつける株が別々に生えています。ビオトープでも雄株と雌株が見られます。一般的に植物の世界では、雌花は地味な姿で、一方の雄花は派手で美しく感じられます。ヤナギ類も同様で、写真の様に雄花はみていて美しいと感じます。



(佐々木 光正)

第9回総会のお知らせ

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会会則第7条により、下記にて定期総会を開催します。

2年ごとの役員改選の総会となります。会則第5条により、役員のおすすめ名簿は1月8日の幹事会にて決定しますので、自薦他薦を含めて、それまでにご希望あれば申し出てください。

記

1. 日時 2011年1月22日（土）
10時開会 第2部終了は12時ごろ
2. 場所 名戸ヶ谷町会ふるさとセンター
名戸ヶ谷小の道路へだてた南側
3. 議事 2010年の活動・決算報告
2011年の活動計画と予算
役員選出
その他

第2部 柏市の生きもの多様性プランについて
講師は未定です

終了後に、同会場にて懇親会を行います。
議案書は当日配布予定です。また、年会費も集金します。すべての終了は14時ごろとなります。

編集後記

ビオトープだよりを編集していて、大変、ありがたいのは、会の皆さんのご協力です。

写真、記事が次々に寄せられ、編集者としては、いわばうれしい悲鳴をあげております。

この季節は収穫を始めとして、イベントの多い時期でもあり、多く寄せられた記事を、名なり無理に押し込むということもあり、中には文字を小さくして入れたということで、やや体裁がわるくなったことをご容赦願いたいと思います。

自然を相手とする、このビオトープのような会の動きは、1年を周期とする同じような繰り返しで、いわば農耕民族の営みのようなところがあり、マンネリに陥りがちだと思います。しかし、そこには変化があり、新しい発見もあります。そのあたりを写真を多用しながら追求したいと思います。

(高田昭治)

注：写真については、特に記載がないものは、佐々木光正氏の提供によります。

名戸ヶ谷ビオトープだより

第44号

2010年冬号

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

天候に恵まれた収穫祭



ビオトープの里芋

「ビオトープで育てた里芋を豚汁に使ってほしいんですよ。」と藤平さんにバケツの中を見せられた時は真っ黒な泥の塊に佐々木さんの奥様も私も思わずこれってほんとに里芋?と。「みんなが楽しみにしているから」との一言に渋々「では使わせていただきます。」ということになりました。ところが大量の泥を洗

次ページへ続く

収穫祭を終えて

11月3日文化の日、朝からくっきりと秋晴れで申し分のない天気でした。ビオトープ恒例の収穫祭が盛大に行われ、来賓では名戸ヶ谷小から校長、教頭他1名の出席を頂きました。学校からウーロン茶、ミネラルウォーターを、地主の木村さんからは、ビール2ケースとバナナ1箱の差入れがあり大変有り難うございました。出席者は過去最高の50人で内訳は会員19名、来賓3名、そして家族、児童28名でした。学校の先生から予め収穫祭案内のお知らせがあった様で大勢の児童が参加し大にぎわいでした。

今年は、佐々木さんと実行委員の任命を受けて、昨年実績をベースに1週間前から器具、用具等の準備をして名戸ヶ谷小からの餅つき、炊飯用具一式も借り受けリヤカーで運び入れました。特にアルコール類は、実行委員好みの美味しいものを用意したつもりで売れ行きは良かったです。会員皆様も、お互い語らいながら美味しい新米をじっくりかみしめ、ビールを飲み今年1年のあれやこれやの苦労を思い起こした事でしょう。

5月上旬に苗の引取り、田植えから始まり草取りを数回、8月の雀避けネット張りとその取り外し、9月上旬の稲刈りと9月26日の脱穀へと、1年がかりで作上げた汗と力の結晶です。精米での収穫量は、昨年比もち米：79%、うるち米：94%との事です。今年の異常気象の中で日本列島は、大きく影響を受け致し方ないと思います。

今年も、負担をかけないように、おにぎりを炊飯に切り替えて、つき餅、豚汁の3種としました。豚汁は、佐藤さん、山村さん、丹羽さんのご協力で美味しく出来て、全て売れ切れでした。女性陣の皆様に

次ページへ続く



暖かい日差しを浴びながら収穫の喜びを皆で分け合う

前ページから

い流すと小ぶりながらきれいな里芋が3,40個も出てきました。茹でて見ると中はねっとり、真っ白な肌でお味も最高。急遽佐々木夫人と相談して大きい塊の部分は豚汁に、小さめものはきぬかつぎ風にすることになりました。豚汁の大鍋からおいしそうなおいが漂い、テーブルにビールが並び始めたました。頃合を見計らって、丹羽さんのアイデアでもち米をふかした時に使ったすのこに里芋は並べられました。年に一度の収穫祭に日頃黙々と作業に励む男達が今日はおおはしゃぎ。女性達も豪快にcanぱ〜いです。里芋はすっかり忘れられ状態です。気がついた時には軟らか過ぎる程に蒸し上がってしまいました。それでも「ビオトープの里芋で〜す。」とお出しするとほおっ!と声が上がり手があちこちから伸びてきました。何はともあれ育て上げたおいもですからおいしくないはずはありません。喜んでいただけて良かった、良かった。来年も里芋作ろうよの声にすっかり気を良くした調理班でした。

(山村和子)

今年の異常気象にもかかわらず、お米の出来もまあまあでしたね。田植え 草取り 稲刈り脱穀と収穫の喜びを皆さんで味わい楽しい一時を過ごす事が出来ありがとうございました又 来年め頑張って収穫祭を出来る事を楽しみにしております。

(丹羽なみ子)

餅つきは子どもたちにも大人気
かけ声とともにつきあげた

前ページから

本当に感謝致します。餅は、子供達にもついてもらい、かけ声を上げながら楽しい経験となった筈です。つきたてを頬張って元気にはしゃいでいました。又昨年に続いて炭火でのサンマ焼きも彩りを添え、こうした収穫祭が、子供たちに米作りと自然の大切さを少しでも分かって貰えたらと期待し、ビオトープの意義かとも思います。

あっという間に時が過ぎ、予定の午後2時前には、後片付けも全て終了しました。幹事をはじめ皆様の御協力で無事に大イベントを終える事が出来、本当に有り難うございました。来年も又美味しい米が食べられる様、力を合わせ頑張って行きましょう。実行委員一同御礼申し上げます。

(藤平三郎)

ビオトープとわたし 春山 秀雄

名戸ヶ谷と聞くとまず思い出すのが名戸ヶ谷湧水である。今から25年以上も昔のこと、湧水に憧れて自転車に乗って場所探しに来たことがある。脳梗塞で倒れた義母の入院先が名戸ヶ谷病院であったこともあって、殆ど毎日のように自転車で通った。道路はすでにすっかり舗装されていた。その昔、今の新柏駅の方にまで広がる広大な湿地にぷかぷか浮いている古木に惹かれて綱渡りを試みて転落し濡れねずみになった頃の名戸ヶ谷の姿はすっかり消えていて、続々と造成中の洒落たサンパセオ団地の姿が新旧の交代劇を象徴するかのようであった。緑が丘交番方面からの車道も法輪寺の方に抜けていて、いまのような「回生の里」も「D2」もなく、この辺りはたしか梅林であったように記憶している。

僕が「ビオトープを育てる会」に入会したのは一足先に入会していた先輩である妻の話に惹かれたからである。その意味では妻は優れた「語り部」であり、個性の強いロマンチストの才川さんや植物に造詣の深い佐々木さんも妻の話の中によく登場した。「いい人がいっぱいいる会だ」というのが第一印象である。

入会してまもない頃、妻に連れられて篠崎会長のお宅にお邪魔した。その折に懇願されたことが縁で二人で広報の仕事を引き受けることになり、手探りで4頁、隔月発行、の「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより」の編集に創刊号から携わるようになった。シリーズ「名戸ヶ谷の昔」の取材でビオトープ周辺の古老のお宅にお邪魔し、貴重な昔話を聞かせて頂いたことも思い出す。お茶の合間に口にしたお煎餅の味と、ゆったりとした時間の流れが一瞬停止したかのような錯覚を満喫できる至福の時間。「語り部」として登場された木村きくさん、(旧ホテルブーン横の)鈴木宏さん、(名戸ヶ谷病院前の竹林に囲まれた)藪崎正治さん、(堀をめぐらした本家の)藪崎恒雄さん、郷土史研究家の藪崎香さん・・・みなさんに共通した朴訥な語り口は幼時期に過した北海道の森に囲まれた風景へと僕を連れ戻した。溪流の岩石を剥がして探したザリガニ(二ホンザリガニ)や蚊帳の中一面にホテルを放し、部屋の灯りを消してじっと息を潜めていた幼い頃の思い出・・・。

僕が広報担当の「幹事」として関わった僅か7年の歴史の中でもいくつもの悲しい「別れ」があった。そして僕自身もまた脳硬膜下血腫やら冠動脈バイパス手術やら、何やらかやら、とつぎつぎと押しかけてくる病苦に包囲され、ビオトープでの作業は勿論のこと広報編集の仕事も替って高田さんに引き受けていただくをない羽目となり、今日に至っている。でも今後ともビオトープの会員ではあり続けたいと思っている。「いい人がいっぱいいる会」のイメージは昔も今も変わってはいないから。

は24兆円、2050年には89兆円と試算している。今後の民間企業の取り組みに期待したいものである。

熱帯雨林は地球上の 7 %に過ぎないが、地球上の種の 50～90 %が集まる地球上の宝庫である。熱帯雨林などの特定の場所にしか住まない昆虫を含めると、過去1年間に 4万種が姿を消したといわれているが、いまそれ以上の速度で絶滅が進もうとしている。国連が2008年に発表した世界の絶滅危惧種は次の図のとうりである。日本の絶滅危惧種については環境省が発表しているが、各種とも2 %程度の差異があるだけで、同等と見ることが出来る。

生物多様性千葉県戦略の理念である「いのちのにぎわいとつながりを、子供たちの未来へ」をビオトープの活動を通して、実現に努力しなければならないと考えている。

(篠崎 将)

作業日誌から 10.16 11.20



左上 10/16 セイタカアワダチソウ刈り取り

左下 10/16 イネわらの裁断

下中央 10/16 除草

右上 11/20 Bゾーンに池を掘削 きつい仕事だ

右下 11/20 掘り上がった池



生物多様性と絶滅の危機

世界に於いても日本においても、今すぐ対応しなければならない環境問題は、地球温暖化防止対策と生物多様性の確保である。COP10を機に国、行政、及び民間企業がこぞって生物多様性戦略に取り組んでいることは、大変うれしいことである。我々の身の周りには、数千万とも、1億とも言われる種がくらしている。多様な種は、食物連鎖や共生などの関係を保ちながら、生態系のネットワークをつくっている。砂漠にも熱帯雨林にもそれぞれの生態系があり、場所によってメダカのDNAが異なるように、遺伝子にも多様性がある。

人が生態系から受けている恩恵を生態系サービスと呼んでいるが、国連環境計画(UNEP)の発表によると、その規模は5000兆円といわれ、世界のGDPの2倍以上に相当するという。この恩恵を人の手で補うことは出来ない。従って生物多様性を保全することは、人の生活を守り、人類の持続性を保証することにつながっている。生物の絶滅速度が早まる中、生態系サービスも劣化が著しく、資源の入手が困難になってきている。

民間企業においても、生物多様性への配慮なしに企業活動は成り立たないといわれている。国連環境計画が今年7月に公表した生物多様性ビジネスは2008年6兆円であったものが、2020年に

右ページへ続く

名戸ヶ谷小学校ふれあいの集い

今年も名戸ヶ谷小学校のふれあいの集い(11月6日)に協力しました。当日朝、臼と杵を一式、名戸ヶ谷ビオトープから名戸ヶ谷小学校へ運搬、臼と杵はそのほか名戸ヶ谷小学校で用意したものが二つ、カマドが3つで、次々にセイロをかけてモチ米を蒸かし、つきあげました。

使ったモチ米は、もちろん、ビオトープで収穫したものです。35キロ使用で、10臼です。

育てる会から会員が10人ほど参加しました。餅つきは、PTAの人も飛び入り参加。子どもにも人気で、小学生が列を作り、小さな杵で餅つきの練習をしました。

つきあがった餅は、PTAのお母さん方がちぎって、あんこ餅、きなこ餅などにして配布です。

終了後に、参加した会員には学校の理科室で、餅を含む昼食がふるまわれ、校長先生らと歓談しました。いいお天気に恵まれ、ちょっと汗をかきました。セイロの布巾が目詰まりして、なかなか吹き上がらないという経験もしました。

(高田昭治)

大勢の子供が餅つきに参加して 昨年やった人は得意気にきねを持つ人 今年 初めての人 家庭では なかなか経験出来ないのも楽しそうでした そんな子供達の笑顔を見て感動しました。お手伝いして頂いた皆さん お疲れさまでした。

(丹羽なみ子)



まずカマドに火をつけることから開始



次々に餅をつきあげる。



理科室で昼食をふるまわれ歓談

ふれあいの集い

名戸ヶ谷小

PTA副会長 数崎明子

11月6日(土)に名戸ヶ谷小学校で「ふれあいの集い」が行われました。名戸ヶ谷小では、子どもたちの学習発表会とPTA主催の「お餅つき」やバザー、ミニスポーツを実施しています。

「お餅つき」については、子どもたちとビオトープの方々に作った餅米をおいしく食べてもらうために、事前にビオトープの会長さんや学校の先生方、PTAの役員とで雨天対策など細かいところまで何度も打合せを行いました。

「ふれあいの集い」当日は、天候にも恵まれて、ビオトープの方々の力添えと、学校の先生方、PTAの皆さんの協力のおかげで、大変おいしい餅を、子どもたち、保護者と先生方に食べてもらうことができました。

笑顔いっぱいにお餅を食べている様子を見て、とてもうれしく思いました。ビオトープの会の方々には、日頃より名戸ヶ谷小の子どもたちのために、貴重な体験のお手伝いをして頂き、本当にありがとうございます。

今後とも協力のほど、よろしくお願いします。

名戸ヶ谷ビオトープ秋の観察会と生態調査 (動物類)

10月23日(土) 10:00~12:00に秋の生きもの観察会を開催しました。晴天の秋空の下、ビオトープの秋の生きものたちと会員以外では2家族7名がふれあいました。

また、秋の生態調査は10月25日(月)の13:00~15:00に開催しました。昆虫類の36種をはじめ、合計57種記録しました。

記録した生きものたちは、例年見られる顔ぶれと大きく変わりません。変わったところでは、クロメンガタズメというガの仲間を見かけました。メンガタズメの仲間は背面にドクロのような模様があることから命名されています。「ドクロ蛾」とも呼ばれることがあります。

名戸ヶ谷ビオトープでは、時々面白い生きものたちを見かけることができます。名戸ヶ谷ビオトープにいらっしゃる際には、ちょっと草むらの中を覗き込んでみると、面白い発見があるかもしれません。変わった生きものがいたら、ぜひ写真に撮ってご報告ください。



採取した動物の鑑定、終了後は放します

■秋の生態調査で記録されたビオトープの生きものたち

＜鳥＞ 8種

ハシブトガラス / ハシボソガラス / コサギ / モズ / キジバト / ムクドリ / ヒヨドリ / スズメ

＜両生類・爬虫類＞ 4種

ニホンアカガエル / ニホンカナヘビ / ウシガエル (オタマジャクシ) / シマヘビ

＜昆虫(チョウ・ガ)＞ 12種

ツマグロヒョウモン / ヒメアカタテハ / キチョウ / ヤマトシジミ / ウラナミシジミ / ベニシジミ / チャバネシジミ / モンシロチョウ / イチモンジセセリ / キタテハ / クロメンガタズメ / クロツヤミノガ (幼虫)

＜昆虫(バッタ)＞ 8種

オンブバッタ / ツチイナゴ / トゲヒシバッタ / コバネイナゴ / クビキリギス / ツユムシ / エンマコオロギ / カネタタキ

＜昆虫(甲虫・その他)＞ 16種

ナナホシテントウ / ナミテントウ / ヨモギハムシ / キアカネ / マイコアカネ / ナツアカネ / チョウセンカマキリ / オオカマキリ / コガタズメバチ / フタモンアシナガバチ / セイヨウミツバチ / ハラナガツチバチの仲間 / ホソヒラタアブ / ヒトスジシマカ / ツマグロオオヨコバイ / シロオビアワフキ

＜クモ＞ 4種

オニグモ / ジョロウグモ / ナガコガネグモ / ササグモ

＜貝類(陸上)＞ 1種

ウスカワマイマイ

＜水中＞ 4種

カダヤシ / スジエビ / アメリカザリガニ / サカマキガイ



動物の採取へ



クロメンガタズメ

(松清智洋)

今年の稲作について

我がビオトープの稲作も今年で8年目になり、軌道にのりつつあり、会員の皆さん農作業もだいぶ慣れてきたようです。今年も膝まで浸かる深田に入っての田植え、田の草取り、稲刈り作業とハザ掛け、足踏み脱穀等の作業にご苦労されました。

しかし今年の収穫米量はもち米が玄米ベースで106kg前年比80%弱であり、うるち米は300kgの前年比94%でした。7、8月の記録的猛暑が続いた影響を受けて収穫量は残念ながら減少しました。又米質も未成熟粒や胴割れが多く見られ、米質の面でもまいちでした。

前号(第43号)では稲刈りまでの状況を見て、作柄は「前年よりやや良」と報告しました。刈り取った稲束の量では確かに前年を上回っていました。その時もった状態で穂がやや軽いように感じましたが、収穫量がこれほど減少するとは予想しませんでした。

これは7、8月に続いた熱帯夜の影響で籾中での米粒の結実状況が予想以上に悪かったためであります。この続いた暑さの影響で米粒が胴割し、小米の混入が多くなりました。

(1) 今年の稲苗はこれまでの不耕起栽培苗に代えて柏市内の通常苗を使用しましたが、その影響は明確には認められませんでした。

(2) 今年の肥培管理は元肥を多くして、十分な分けつと、しっかりした稲茎作りに重点をおきました。そのため穂肥はやや控えめになりました。分けつ、稲茎の生育までは順調でしたが、穂肥不足により籾中の結実が不十分となり、又猛暑の影響も受けて収穫量が減少しました。

(3) 雑草対策については、コナギの繁殖の兆しが見えたが会員による早めの除草により、大事に至らなかった。しかしうるち水田では刈株中に生えたアメリカセンダングサが稲丈の上まで伸び、稲作の生育を阻害しました。その対策としては田植え前にもち水田のように刈株を足で踏み込む作業が有効であろう。

(4) 水管理については稲の倒伏を心配して、稲刈り前の落水(約3週間前)を早めた。稲の倒伏は軽減し、稲刈りの作業性は良かったが、それが猛暑の被害を大きくする結果になってしまった。今年はもち水田の冷たい湧き水の影響を軽減するためもち水田#1の供給水路の途中に小さな池を掘り、水を温めるようにしました。給水口付近が若干生育遅れが見られましたが、冷たい水の影響は大幅に改善された。来年は池を更に大きくして水の滞留時間を長めて水田に入る水の温度を高め、冷水の影響を減らしたい。

(5) うるち水田はこれまで刈株の間に苗を植える方式を続けてきましたが、水田の地均しが殆ど行われないうので低い個所と高い個所とがあり、根付けの遅れる苗が見られ、それが分けつ不足の原因になっていた。来年は田植え前に刈株を足で踏み込んだ後に地均しする必要がある。(影山賢三)



脱穀作業もチームワークよく

10月26日 うるち稲の脱穀は、今年も足踏み脱穀機と唐箕での、手(足?)作業で行いました。9時集合予定でしたが、9時前から早々と始まりました。稲掛けパイプから外して運搬する人、足踏み脱穀機は2人での作業、籾を屑藁と分ける人、唐箕で最終選別して袋詰めする人、藁を束ねる人、藁を田んぼに運ぶ人などそれぞれの役割分担をしながら、状況を見て交代するなどチームワークよく、仕事が進みました。懐かしい光景に市道を通る人が珍しそうに見ていました。さすがに稲の量が多く、午前では終了

せず、「おにぎりとお茶」での昼食を取って無事終了しました。収穫は、ほぼ昨年よりちょっと少ないかな。ご苦労様でした。

稲掛けパイプの解体 藁・米ぬかの散布作業

11月2日、幹事会前に刈り取ったうるち稲を乾したパイプ棚を解体し、倉庫に収納しました。延長約50mの3段パイプを手際よく外しましたが、上段から外さなければならないのに下段を外してしまい、足場がなくなりそうになったりして……。でもさすがに慣れたもので、1時間ほどで無事終了しました。高さがあると掛けるのも大変で、危険も伴いますので来年は2段形状にしましょう。終了後に藁の切断・散布も行いました。20日には、米ぬかも散布し、水を張っています。来年の稲作りのために生き物たちに活動してもらいます。これで今年の田んぼの作業は終了です。本当にお疲れ様でした。

(小笠原智)

